

モリブデン 4～6月の相場は\$18.5～20で高値推移

世界的な物流混乱の懸念から在庫積み増しが活発化

ステンレスなど特殊鋼に用いられるモリブデンの国際相場（ MoO_3 ）は、ロシアのウクライナ侵攻にもとない、ヨーロッパの需要家などが供給懸念を強め、在庫を積み増したことで反発し、足元では19.25～19.40ドルと21年10月以来の高値圏で推移している。より川下の鉄鋼添加材のフェロモリブデン（FeMo）も47ドル/kg前後と年初より約6%上昇。モリブデン相場は21年5月頃から回復し、以降は19ドル前後で推移してきたが、今年初めからは中国品がヨーロッパのスポット市場で販売され、わずかに調整していた。ヨーロッパやアメリカなどの需要が21年春から急回復したものの、最大市場の中国のステンレス生産は21年7月からやや停滞している。一方、供給面では、銅価格が21年に急騰したことで、チリのバイプロ鉱山では主産物の銅生産を優先し、副産物のモリブデンの減産傾向が顕著となっている。今年も大手生産者が銅の生産に注力し、需給のタイト感は続くと思われる。レアメタル専門商社・アドバンストマテリアルジャパン株式会社（AMJ）で長らくモリブデンを扱う松村 洋・合金鉄部長によると、今後の相場は「年内を通じて17～21ドル、当面は18.5～20ドルで高値維持」という。さらにチリの主要港の近海では昨年同様に高波が発生しているとの情報もあり、コンテナ船の荷積みが遅延すれば、相場上昇に拍車をかける可能性もあるという。